

太田耕史郎(広島修道大学経済科学部教授)

地域産業政策論

勁草書房 2016.8. 4, 202p.

地域政策には国主導の政策（地域開発など地域間格差是正のための国の政策）と自治体等による地域主導の政策（地域の内発的発展をめざす政策）の大きく2つに分けることができる。本書は後者の地域政策を重視するものであり、とくに地域発展の主要な要因となる産業に関わる政策（地域産業政策）について、日本や海外の各種の事例にもとづきつつ、そのあり方や課題を検討している。章の構成は以下のとおりである。

序論

第1章 都市の発展・衰退と地域産業政策—デトロイトを主な事例として—

第2章 地域産業政策の指針(1)—ジェイコブズ、ポーターとフロリダの研究—

第3章 地域産業政策の指針(2)—シリコンバレー—

第4章 ヘルシンキ（フィンランド）—協調組合主義とICT産業の発展—

第5章 京都—企業家精神の注入と近代産業の誕生—

第6章 浜松—「やらまいか精神」の継承—

第7章 熊本—内発的産業振興の課題—

第8章 地域産業政策としての大学設置

第9章 地域産業政策としての創造的事業文化の形成

第10章 地域産業政策としての生活環境整備 結び

序論では本書の問題意識を述べ、第1章ではデトロイトとピッツバーグを事例に都市の衰退と復興の実態をみつつ、地域産業政策の意義、対象、手段について解説している。

第2章ではジェイコブズ、ポーター、フロリダにおける地域産業政策の考え方やそれらに対する批判を紹介している。また、第2章の補論2では大阪市長であった関一の政策を紹介している。

第3章はシリコンバレーの事例を取り上げている。オープンで企業家精神にあふれた独自の事業文化をベースに分散型産業構造が構築されていることを説明するとともに、ベンチャーキャピタル、エンジェル、大企業などの各種のアクターがシリコンバレーの成功を支えてきたことを述べている。

第4章ではヘルシンキにおける国家的な産業の国際競争力強化策について解説している。政府、教育機関、産業界や労働者の代表による協調組合主義をもとに資金と人材をICT産業に集中させるという、戦略的な産業政策が実施されてきたことが述べられている。また、生活環境、教育、福祉の充実がそうした政策を支えていたことも示されている。

第5章では京都の事例を扱っている。京都において電子部品や精密機器などの近代産業が誕生し、発展してきた要因を探っている。伝統産業、事業文化、政治風土などの要因よりも、起業家達の理念・行動という要因のほうが大きかったことが示唆されている。

第6章の浜松の事例においても、起業家達の独特の考え方と経営方法が地域産業の発展をも

たらしめたことを示しているが、浜松のケースでは「やらまいか精神」に代表される独自の事業文化、大学の存在、自治体の産業政策などが有効に作用していることが述べられている。

第7章は企業誘致を軸として産業振興を行ってきた熊本の事例である。熊本ではテクノポリス法等での開発計画をはずみとして企業誘致が成果を上げてきたが、最近では海外生産移転等の進展から誘致企業の維持が課題となってきたと指摘している。内発的産業振興のためには、創造的事業文化の形成がキーとなることが示唆されている。

第8章から第10章は政策提言の章である。第8章では国際教養大学、会津大学、金沢工業大学の事例などから、自治体による大学の設置あるいは大学へのコミットメントが地域産業政策として広範な有効性を持ちうることを示している。第9章では浜松やシリコンバレー等の事例から創造的事業文化の形成の重要性を説明している。その方策として大学の機能強化、企業誘致、留学が有効であることを指摘している。第10章ではピッツバーグ等の事例から、生活環境整備が地域産業政策として重要であることを指摘している。そのためには住民参加型まちづくりが推進される必要があるとしている。

地域産業政策についての研究が近年増えてきているが、本書は他と比べると次のような特徴がみられる。第1に、地域の事例が豊富であることである。章のタイトルに挙げられている地域以外にもピッツバーグ、ボイシ、坂城、米沢、チャタヌーガなどの様々な地域が取り上げられている。第2に、一般的な中小企業とそれに関わる政策が分析の焦点にはなっていないことである。地域産業政策について論じる多くの研究は中小企業とそれに関する政策に分析や研究の

重きを置いている。本書では大学や大企業からのスピンオフ企業を取り上げてはいるものの、一般的な既存中小企業と自治体中小企業政策についてはほとんど扱われていない。第3に、大学、教育、文化、生活環境、起業家が本書の各章を通じてのキーワードとなっており、これらが地域産業政策の重要な要素と捉えられていることである。

(大阪市立大学商学部教授 本多哲夫)